

「個別相談支援」セルフチェックシート

□欄に○印（理解し、実践できている）、△印（理解しているが実践できていない）、×印（理解していない）を記入してください

1. 意思決定支援

- ①相談支援において、「本人の意向を無視していないか」を意識することの必要性 □
- ②相談支援において、「本人の言葉の意味を吟味しているか」をその都度考えることの必要性 □
- ③相談支援において、「支援者の都合が優先されていないか」を常に考えながらかわることの必要性 □
- ④計画作成時、「既存の社会資源だけが支援の前提となっていないか」を見直すことの必要性 □
- ⑤相談支援のプロセスにおいて、「先に支援者の結論ありきで話を進めていないか」を振り返ることの必要性 □
- ⑥本人や家族等から、育ってきた環境の中で興味を持ったこと、楽しかったこと、楽しい時や嫌なときの表情などを知ることの意味 □

2. インテーク

- ①信頼関係の基礎を構築するための大事な場面 □
- ②福祉サービスに限定したやり取りではなく、主訴等の背景を丁寧に聞くことの意味 □
- ③今後の相談支援の見通しを説明し、利用者から同意を得ることの必要性 □

3. アセスメント

- ①アセスメントは、利用者から表出さえる全てが大切な情報である □
- ②生活歴を丁寧に聞くことは、利用者への理解が深まることになる □
- ③ストレングスは、健康な側面に着目した「本人のポジティブなところ、強み」であり、支援には欠かせない視点であることから、対話の中で常に意識する □
- ④情報の整理は、利用者から得た情報をその都度整理し、エコマップやジェノグラム、ストレングス票等のツールを活用することの有効性 □
- ⑤アセスメントの能動性・構成力を高めるには事例検討や GSV などの場面に参加することの重要性 □

4. モニタリング

- ①基本相談で得られた情報による支援者の見立てがモニタリングに影響している □
- ②サービス利用の有効性だけではなく、人との関係性や環境の変化など、多角的な視点をもってモニタリングを行うことの重要性 □